

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート（抜粋）

※ 太字のシートを抜粋しています。

■対象室課一覧

シートNO.	施策	対象室課
1	自治会加入率	市民自治推進室
2	小地域ネットワーク活動の延べ参加者数	福祉総務室
3	高齢者生きがい活動センターの利用者数	高齢福祉室
4	障がい者サービスボランティア協力者数	中央図書館
5	青少年指導者講習会の参加者数	青少年室
6	認知症サポーターの養成者数（累計）	高齢福祉室
7	障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	障がい福祉室
8	成年後見制度の認知度	福祉総務室
9	日常生活自立支援事業利用者数	福祉総務室
10	地域包括支援センターの認知度	高齢福祉室
11	吹田市社会福祉協議会の認知度	福祉総務室
12	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の(延べ)相談対応回数	福祉総務室
13	自主防災組織の結成数（連合自治会単位・単一自治会単位）	危機管理室
14	災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	福祉総務室
15	民生委員・児童委員の人数	福祉総務室
16	単位高齢クラブ数	高齢福祉室
17	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の認知度	福祉総務室
18	ふれあい交流サロン設置数	高齢福祉室
19	こどもプラザ事業実施回数	青少年室
20	貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	総合福祉会館
21	地域密着型サービスの整備箇所数	高齢福祉室
22	障がい福祉サービスの利用者数等	障がい福祉室
23	留守家庭児童育成室入室児童数	放課後子ども育成室
24	生活習慣改善するつもりはない人の割合	健康まちづくり室
25	各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	学校教育室
26	移動経路のバリアフリー化率	道路室
27	JOBナビすいたの利用者数	地域経済振興室
28	「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	地域経済振興室

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2026年度 (令和8年度)
小地域ネットワーク活動の 延べ参加者数	84,162人	78,155人	13,737人	26,194人	46,503人	86,000人

2 取組の進捗状況

令和4年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○コロナ禍での行動制限が緩和されたことで、会場の利用ルールに基づきながらコロナ禍前の活動方法に戻す地区福祉委員会が増えた。</p> <p>○ふれあい昼食会も福祉バスを使用した「管外昼食会」を取り組む地区、コロナ禍で高齢者の安否確認や外出機会確保を目的とした「ふれあい外出配食」を継続して実施する地区もあるなど、各地区で開催方法等を工夫して取り組まれた。</p>
令和5年度以降の取組予定	<p>○新型コロナウイルス感染症については感染法上、5類へ移行したこともあり、コロナ禍前の活動方法に戻す福祉委員会が増えることが予想される。</p> <p>○吹田市社会福祉協議会に配置されているCSW中心に活動の充実化、活性化を支援する予定。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	評価の理由等
評価	A	令和2年度はコロナ禍で実績値は大幅に減少したが、活動が停滞しないよう開催方法や会場等を工夫するなど地域住民同士のつながり作りに取り組んだため実績値は回復傾向にある。また吹田市社会福祉協議会のCSWも各地区の活動状況について情報提供するなど小地域ネットワーク活動推進を支援した。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2026年度 (令和8年度)
成年後見制度の認知度	実績なし	36%	実績なし	実績なし	実績なし	48%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。

2 取組の進捗状況

令和4年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○令和4年7月、高齢福祉室・障がい福祉室・生活福祉室と協働し、吹田市における中核機関の在り方について検討するため、学識経験者（大学教授）や専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）等で構成する成年後見制度利用促進体制整備検討会議を立ち上げた。</p> <p>○検討会議は全5回を予定しており、うち3回実施。3回の検討会議で、吹田市の成年後見制度に関する現状と課題を理解し、開設当初の中核機関の機能・業務案について議論した。</p>
令和5年度以降の取組予定	<p>○令和5年度においては、残り2回の検討会議で中核機関の業務内容、協議会等の運営方法等についてまとめる予定。</p> <p>○早ければ、令和6年4月に中核機関の設置を予定しており、委託（随意契約）での運営準備を進める。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	評価の理由等
評価	A	スケジュールどおり、令和4年度においては、3回検討会議を開催することができた。3回の検討会議において、市の成年後見制度に関わる状況を確認した。数値目標の達成に向け、中核機関設置後は成年後見制度の広報・啓発活動をより一層進める。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2026年度 (令和8年度)
日常生活自立支援事業利用者数	94人	102人	88人	98人	94人	110人

2 取組の進捗状況

令和4年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○令和4年度、新規契約者は9人（認知症高齢者等1人、知的障がい者等3人、精神障がい者等5人）あったが、契約終了はそれを上回る13人（認知症高齢者等4人、知的障がい者等2人、精神障がい者等7人）であった。</p> <p>○契約終了の理由としては、「転居により他市の社協に移管」が5人、「成年後見制度に移行した」が5人、「本人死亡」が3人となっている。利用者の判断能力が低下するなど、必要性があれば、成年後見制度の利用に円滑に移行できるよう、支援も行っている。</p> <p>○令和5年3月末時点での待機者数は36人となっている。</p> <p>○生活支援員の欠員が続いていることから、新規契約者を安定的に増やせず待機者を減少できない状況が継続していることが課題である。</p> <p>○市民フォーラムやケアマネの会などで、日常生活自立支援事業の事業説明などを行った。また事業の概要や、現状と課題を説明した動画を配信し、事業の周知に努めた。</p>
令和5年度以降の取組予定	<p>○引き続き、安定的な生活支援員の人員確保を目指し、新規契約を増やすとともに、待機者の解消を図る。</p> <p>○令和5年6月発行の社協だよりに事業について掲載するなど、広報活動を行い事業の周知を図る。</p> <p>○吹田市成年後見制度利用促進計画に沿って、成年後見制度の利用が必要な方について本事業からの移行を支援し、本事業を必要とする方の新規契約を進める。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	評価の理由等
評価	B	一定数の新規契約を行うことができているが、令和3年度より待機者が増えたことは課題。事業の周知を目的とした取組については行うことができているが、成年後見制度への移行支援など、適切な権利擁護支援の制度へのつなぎも行っている。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2026年度 (令和8年度)
吹田市社会福祉協議会の認知度	実績なし	47.4%	実績なし	実績なし	実績なし	60%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。

2 取組の進捗状況

令和4年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○市報すいた特集記事令和3年8月号「ICTを活用した地域福祉活動を進めています」、令和4年2月号「施設連絡会～地域貢献活動に取り組む福祉施設の集まり～」にて吹田市社会福祉協議会の活動を紹介した。</p> <p>○令和4年度地域福祉市民フォーラム（会場及びオンラインの同時開催）にて、吹田市社会福祉協議会の活動報告を行った。</p>
令和5年度以降の取組予定	<p>○令和5年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにてPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、子育てサロンの体験コーナーの運営等を行った。</p> <p>○令和3年度と同じく市報すいたにて吹田市社会福祉協議会の特集記事を掲載予定。</p> <p>○令和5年8月に開催予定の株式会社ガンバ大阪主催「吹田スタジアムフェスタ2023」の啓発ブースに出展し、吹田市社会福祉協議会の認知度アンケートの実施等、機会を捉えて啓発を行う予定。</p> <p>○令和6年2月開催予定の地域福祉市民フォーラムにて、権利擁護の分野での取組み等を吹田市社会福祉協議会が報告する予定で調整を進めている。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	評価の理由等
評価	A	夢のファミリーフェスタについては滞りなく開催できた他、各業務については初回の打合せで決めたスケジュールの通り進められている。引き続き、数値目標の達成に向け機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2026年度 (令和8年度)
コミュニティソーシャルワーカー (CSW)の(延べ)相談対応回数	1,825件	1,729件	2,234件	2,248件	2,150件	2,290件

2 取組の進捗状況

令和4年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	OCSW（コミュニティソーシャルワーカー）に相談があった場合、地域活動やボランティア活動を行う市民活動団体、他機関など専門機関と連携・協働して支援を行った。また、すぐに課題を解決できない場合であっても、相談対象者の不安に寄り添い、関係を閉ざさない支援に努めた。
令和5年度以降の取組予定	○複合化した課題を抱えた世帯への支援が多くなっているため、課題解決への支援だけではなく、孤立・孤独させないネットワークづくりを進めていく。 ○吹田市社会福祉協議会ではCSWを対象に全5回の重層的支援体制整備事業に関する研修の実施を予定しており、令和7年度開始予定の重層的支援体制整備事業実施に向けた検討会議には事務局として参画し、CSWのアウトリーチ事例、現状等を報告する。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	評価の理由等
評価	A	会議、研修等は計画通り準備が進んでいる。引き続き数値目標の達成に向け、ネットワークづくりを進めるとともに課題を抱えた人の掘り起こしや関係を閉ざさない支援を進めていく。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2026年度 (令和8年度)
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	実績なし	15.5%	実績なし	実績なし	実績なし	30%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。

2 取組の進捗状況

令和4年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○市報すいた特集記事令和3年1月号「くらしをまもり、つながりづくり」にてCSWの活動を紹介した。</p> <p>○令和4年度地域福祉市民フォーラム（会場及びオンラインの同時開催）にて、吹田市社会福祉協議会の活動報告を行った。</p>
令和5年度以降の取組予定	<p>○令和5年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースではPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、子育てサロンの体験コーナーの運営等を行った。</p> <p>○令和5年8月に実施される株式会社ガンバ大阪主催「吹田スタジアムフェスタ2023」の啓発ブースに出展し、CSWの認知度アンケートの実施等、機会を捉えて啓発を行う予定。</p> <p>○市報すいたにて吹田市社会福祉協議会の特集記事を作成予定であり、CSWへのインタビューを掲載する予定。</p>

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	評価の理由等
評価	A	夢のファミリーフェスタについては滞りなく開催できた他、各業務については初回の打合せで決めたスケジュールの通り進められている。引き続き、数値目標の達成に向け機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。